令和３年度全国学力・学習状況調査
教科結果の分析　　船橋市立習志野台中学校

＜教科に関する調査＞

1段目：学校　2段目：千葉県（公立）　3段目：全国（公立）

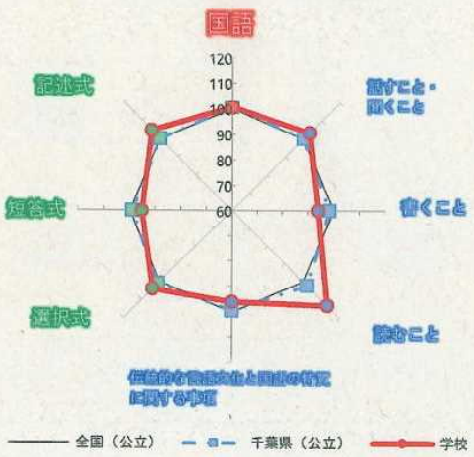
【国語】

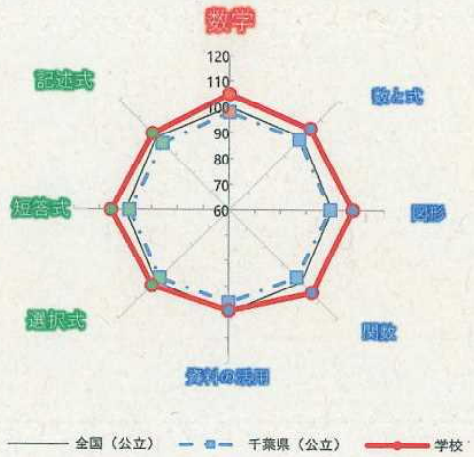
		設問数	正答率	相対値
全体	国語	14	65	100.6
			65	100.6
			64.6	—
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	82.4	103.3
			79.9	100.1
			79.8	—
	書くこと	3	53.7	94.0
			56.2	98.4
			57.1	—
	読むこと	4	54.8	113.0
			49.5	102.1
			48.5	—
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	72.2	96.1
			74.7	99.5
			75.1	—
問題形式	選択式	6	66.4	103.9
			64.5	100.9
			63.9	—
	短答式	4	70.9	95.3
			73.7	99.1
			74.4	—
	記述式	4	58.5	104.5
			56.0	100.0
			56.0	—

【数学】

		設問数	正答率	相対値
全体	数学	16	60	104.9
			56	97.9
			57.2	—
学習指導要領の領域	数と式	5	67.9	104.6
			64.0	98.6
			64.9	—
	図形	4	55.5	108.0
			51.1	99.4
			51.4	—
	関数	3	59.8	106.0
			55.0	97.5
			56.4	—
	資料の活用	4	53.5	99.4
			51.8	96.3
			53.8	—
問題形式	選択式	2	53.5	102.1
			51.3	97.9
			52.4	—
	短答式	9	74.4	105.5
			69.4	98.4
			70.5	—
	記述式	5	35.7	102.0
			33.8	96.6
			35.0	—

※教科レーダーチャートは、各区分の全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値を示したものである。





国語の調査結果に見られる特徴と現状
・全体として全国、全県の平均値を若干ではあるが上回る結果である。
・「読むこと」の項目で高い結果になっている。朝読書の習慣の定着、また図書室の利用数(貸し出し数)が高いためと思われる。
・「短答式」「書くこと」の項目が低めである。文章をまとめたり、書く習慣を増やすような取組が必要と思われる。

数学の調査結果に見られる特徴と現状
・全体として全国、全県の平均値を上回る結果である。
・「数と式」「図形」「関数」など、基礎的な学力が身についていることを表している。今後も応用力を支える基礎力を高めていきたい。
・「資料活用」の項目が若干低い数値となっている。資料を正確に読み取ったり、資料から適切な式を導き出す、といった問題に粘り強く取り組む必要があると思われる。

以上、令和３年５月２７日に実施した本校の全国学力・学習状況調査の結果です。
令和４年度は４月１９日に実施します。